

「日本経済見捨てられる私たち」山家悠紀夫

# 航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No246(23-04) 2008年10月29日

航空連定期総会  
学習会報告シリーズ①

## 目からウロコの経済学

# 構造改革が日本をダメにした

航空連の定期総会(9/18)で現状の日本の経済情勢に関する学習会を実施しました。講師は、元神戸大学大学院教授、暮らしと経済経済研究室主宰の山家悠紀夫さんです。山家さんは、1991年のバブル崩壊以降、行われた規制緩和・自由化、構造改革路線の政策が、日本経済、社会をどのように変えてきたのか、「日本経済 見捨てられる私たち」という著書にまとめています。学習会では、本に使用した豊富なデータをもとに、日本経済の問題点は、どこにあり、どうすれば良いのか、解りやすく話して頂きました。マスコミ等で報道される経済政策に対する批判も含めて、学習会の内容をシリーズで報告します。

### 見捨てられる私たちは「労働者」

山家さんは最初に、本のタイトル「日本経済 見捨てられる私たち」の「私たち」は、一般庶民や労働者であることを紹介しました。

1991年のバブル経済崩壊以降、経済の立て直しが課題となり、構造改革が進められてきましたが、その結果、増えたのは大企業の利益であり、減ったのは労働者の収入であること。そして今はワーキングプア、ネットカフェ難民など、私たち労働者が悲惨な状況に置かれる格差社会が作り出されていると指摘しました。

### 構造改革を始めた1997年を境に 日本社会が大きく変化

この変化はいつ起こったのか、データを見ていくと、1997年を境に日本社会が大きく変わったと言います。

自殺者が98年に突如3万人を超え、その後ずっと3万人以上が続き、生活保護受給者も増え続けています。賃金も98年に戦後初めて前年比マイナスとなり、04年まで7年連続で減り続けました。(下記グラフ参照)

### 日本経済を巡る「三つの神話」

労働者がひどい状況に置かれる中でも、「グローバル化によって日本経済は厳しい状況にある」「そうした中で経済を救うには構造改革が必要」「とりわけ、厳しい財政赤字が重荷であり小さな政府にしていく必要がある」と多くの人が思いこんでいることを、山家さんは日本経済に関する「三つの誤解」もしくは「三つの神話」と指摘しました。

これまで、何となく仕方ないのかと思ってきたことが、なぜ誤解だったのか、次号から資料に基づき具体的に証明して行きます。

図1-4 自殺者が激増している

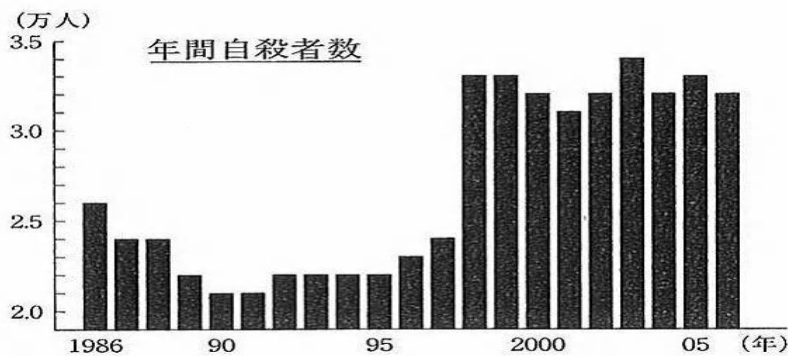


図1-5 生活保護受給世帯が増えている

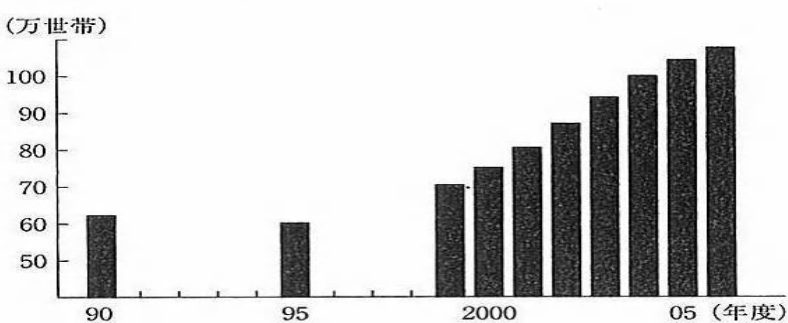


図1-1 給料は減り続けている

